

正福寺報

平成30年お盆号

臨濟宗 円覚寺派
住職 松原 行樹
TEL 045-811-3800
FAX 045-811-6304
shouhukuji@nifty.com

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町340

<http://shouhukuji.com/>

そのままがいい

「赤ちゃん」という詩があります。

慌て者でもいい
泣き虫でもいい
手先が不器用でも
音痴でも構わない
もちろん人が振り向くほどの
美人である必要もない
とりたてて特技がなくても
高尚な趣味も
噂にのぼるほどの博識も不要
おまけに
学歴、職歴、賞罰、一切不問
そのままのあなたがいい
そのままのあなたが好き
赤ちゃんはそう言いたくて
あなたに両手を伸ばしてくる

最後がいいですね。お母さん（お父さん）が赤ちゃんに言っているのかと思ったら、そう思っているお母さん（お父さん）にそのままがいいんだよと、手を伸ばしている詩です。

「そのままがいい」と言っても、

目つきが悪く、怒鳴ったり、天秤をかけたりますことではありません。

我が子を見つめる計らいのない

「そのまま」の温かい眼差し、「そのまま」の表情、そして慈愛のこもった「そのまま」の言葉。それらが赤ちゃんに通じたから、赤ちゃんも手を伸ばしてきたのでしよう。

山岡鉄舟の歌に、こうありました。

晴れてよし 曇りてもよし
富士の山 もとの姿は

かはらざりけり

晴れの日と雨の日で富士山の価値は変わるでしょうか。いえ、富士山はもとのままの富士山です。

環境が変わることによって自分という人間の価値が変わることなど決してありません。

親から生みつけてもらったのは、温かい純粋ないのちです。このいのちのこのころを色眼鏡をかけて見ることなく、天秤をかけることなく、生みつけてもらったときの「そのまま」のこのころで過ごしたいものです。